

CSR最重要課題進捗一覧

当社グループでは、2020年からCSR最重要課題を設定し、CSR(企業の社会的責任)への取り組みを進めてきました。その中で、企業を取り巻く社会・環境課題は、ますます多様化、深刻化しています。当社グループでは、CSRに加えて持続的(サステナブル)な社会の実現のため、事業を通じて社会・環境課題の解決に貢献し続けると同時に、社会やステークホルダーへの価値提供を通じて、持続的な企業価値向上に取り組んでいきます。

CSR最重要課題	ゴール(KGI)	ゴールに向けての手段(KPI)	進捗状況を評価する指数	2023年度KPI達成状況	自己評価	2024年度の展開
 従業員の働き方と健康 活動詳細はP36	従業員の健康に配慮した快適な職場の形成	ワークキャリア・ライフキャリアにあわせた支援	面談・研修の実施件数	自己申告面談の実施(年度内実施率:93%) セカンドキャリア面談の実施(年度内実施率:87%)	○	面談・研修の継続実施
		多様性の推進	面談・研修の実施件数	育児休業取得時・復職時面談の実施(対象者100%実施)	○	面談・研修の継続実施
		従業員の健康管理	健康診断・ストレスチェック受診率	健康診断の実施(対象者100%実施) ストレスチェック診断の実施(回答回収率96%)	○	各種診断の継続実施
 労働安全衛生 活動詳細はP37	労働災害ゼロの達成	安全衛生委員会の適切な活動	KYシート目標件数の達成	目標抽出件数:486件／通期結果:482件 目標未達成度:99.2%	×	目標抽出件数:494件以上
		OHS推進会議の適切な活動	休業災害件数 不休災害件数	1件 目標未達 3件 目標未達	×	労働災害ゼロの達成 労働災害ゼロの達成
	快適な職場環境の実現	労働安全衛生法の順守	該当法規制順守状況確認	100%順守	○	該当法規、逸脱無き事
		安全衛生委員会の適切な活動	重点活動項目の順守状況確認	すべての活動項目を実行	○	各地区ですべての重点活動項目を実施
 環境保全 活動詳細はP39	CO ₂ 排出量2030年までに2013年度比41%削減する	省エネ活動の推進によるエネルギー使用量の削減	CO ₂ 排出量	目標:4,934t-CO ₂ 以下 実績:2,716t-CO ₂ 目標達成	○	4,778t-CO ₂ 以下
	5年度間平均エネルギー消費原単位年1%以上低減を継続する	省エネ活動の推進によるエネルギー使用量の削減	原油換算の売上原単位	目標:15.11kℓ／億円以下 実績:13.30kℓ／億円 目標達成	○	13.17kℓ以下
	2030年まで廃棄物排出原単位(売上高)の前年比1%以上の低減を継続する	沈殿性汚泥排出量の削減	全社廃棄物排出量	目標:7.63t以下 実績:6.56t 目標達成	○	6.49t以下
	環境法規制の順守	環境マネジメントシステムの運用	該当法規性の順守確認	100%順守	○	法規制に基づく法規制順守
 事業を通じた環境・社会貢献 活動詳細はP41	自社製品・固有技術を用いた環境課題解決への貢献	環境貢献製品開発意識の向上	環境貢献製品開発件数	各事業部で開発企画書発行段階から環境を意識した取り組みを実施	○	顧客のGHG削減の動きが活発化しており、開発テーマ数は増加傾向
		バリューチェーンでの環境貢献製品展開	環境貢献製品売上比率	事業部により差異はあるが、ほぼ目標を達成	○	水系化、無溶剤化、環境負荷低減製品の展開を推進
 化学物質管理 活動詳細はP43	藤倉化成化学物質管理データベース(FCDB)の維持向上	化学物質管理意識の浸透	要更新データの決定の更新率	86% 目標達成	○	要更新情報は法令改定を考慮し対応
			原材料情報更新数	3,041件 目標達成	○	継続
			化学物質管理社内講習会数、参加人数	講習会数:19回 参加人数:206名 目標達成	○	講習会内容を精査し継続
 コンプライアンス 活動詳細はP44	重要法令の順守確認	コンプライアンスの意識向上	勉強会実施件数	公正取引および情報セキュリティ分科会にて動画視聴による教育を実施 新任管理職研修およびフォローアップ研修にてコンプライアンス研修を実施	○	全社および国内関連会社に向けて動画視聴などによる教育を実施 新任管理職研修およびフォローアップ研修にてコンプライアンス研修を継続
	不正を防止する強い体制	内部通報案件への確実な対応	制度の充実	内部通報案件なし	○	ホットライン規程に基づき対応
		コンプライアンスの意識向上 コンプライアンス基盤の再構築	コンプライアンス委員会での取り上げテーマ数	人権:コンプライアンス委員会を開催し、人権デューディリジェンスについて確認 公正取引:情報セキュリティ:コンプライアンス委員会にて分科会議案の報告を実施	○	人権:サプライチェーンへのアンケートを継続し状況を確認 公正取引:下請法アンケートなどとともにその取り組みを確認 情報セキュリティ:継続的な教育と監査を実施
 リスクマネジメント 活動詳細はP31	リスクマネジメント体制の確立	経営に関わるリスクの抽出	抽出基準の見直し	全社的視点での潜在リスクを明確化し、リスク軽減への取り組みに着手	○	リスクオーナー(所管役員)の下、各部門で具体的な対応策を検討し、PDCAサイクルを回しながら取り組む



従業員の働き方と健康

当社は、従業員の健康が会社の健全な成長を支える基盤であるとして、従業員の健康管理を推進しています。また、従業員が自主性を発揮して仕事に取り組める職場環境づくりを目指し、人事制度の改善に取り組んでいます。

「ワークキャリア・ライフキャリア」にあわせた支援

「自己申告制度」および「セカンドキャリア支援制度」に基づく面談や教育の継続実施

「自己申告制度」および「セカンドキャリア支援制度」に基づき面談や教育を継続実施しました。

自己申告面談の実績

実施率：93%

セカンドキャリア面談の実績

実施率：87%

※実施率は2023年度中に実施済み分が対象

多様性の推進

育児休業制度取得の推進

多様性の推進の一環として、育児休業の取得を推進しています。

「出生時育児休業(産後パパ育休)」の活用もあり、男性育休の取得率が向上しました。一方で、短期間の取得が増えたことにより、平均の取得日数は伸びませんでした。

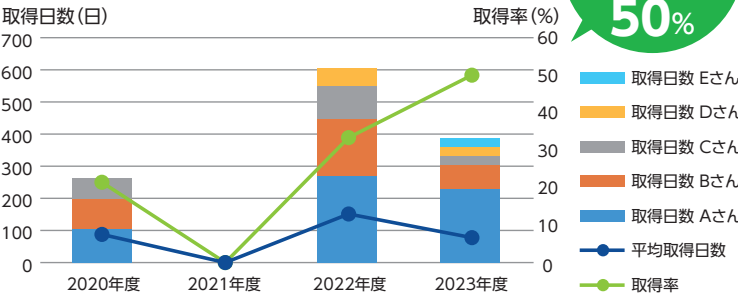
育児休業の取得時と復職時には職場上長や人事と面談を実施し、育児休業や職場復帰に対する不安の軽減を図っています。

従業員の健康管理

健康診断の実施

健康診断やストレスチェックを通じ、従業員の心身の健康管理への取り組みを継続して実施しました。

●育休取得日数と取得率



取得時と復職時の面談実績

実施率：100%

※取得時は全員、復職時は希望者
※職場上長へのハラスメント教育も同時に実施

健康診断の受診実績

対象者実施率：100%

ストレスチェックの受診実績

回答回収率：96%

熱中症対策(協力塗装業者へのキット配布)<フジケミカル>

塗装施工現場管理はフジケミグループ内で標準化されたフジケミスタンダードに基づき、6月から10月にかけて、冷却シートやスポーツ飲料などの熱中症対策グッズをすべての協力塗装業者様に配布しています。

遠賀工場では全従業員が外部の熱中症予防セミナーを受講し、夏場は場内のチャイムを活用して、定期的な水分補給を促進してます。



配布した熱中症対策グッズ



労働安全衛生

労働安全衛生方針

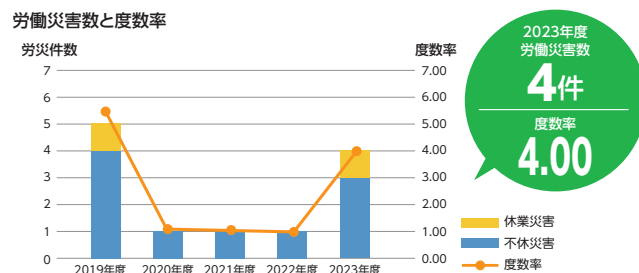


当社は、「労働安全衛生方針」を定め、ISO45001に準拠した「労働安全衛生マネジメントシステム」を構築・運用して従業員が安全・安心に働ける職場づくりに取り組んでいます。

労働災害ゼロの達成に向けた活動

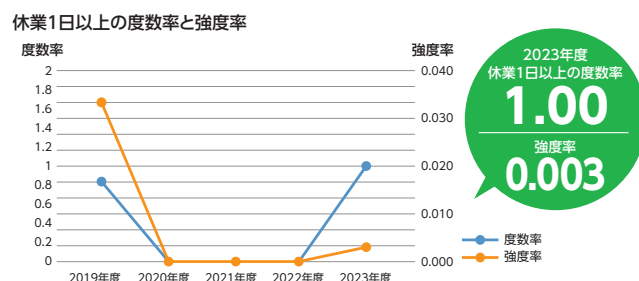
労働災害発生件数

2023年度の労働災害は休業災害が1件、不休業災害が3件発生し目標未達の結果となりました。災害の分類は有害物との接触事故2件、切れ・こすれ事故1件、転倒・激突事故1件です。事故が発生した事態を重く受け止め、過去の事故事例およびKY事例などで抽出された危険源を見直し対策の妥当性、有効性の再検証を行うことで、労働災害の防止に繋がっていきます。



労働災害の指標

2023年度は休業災害が1件発生したため、度数率は1.00、強度率は0.003の結果となりました。休業災害の内容は、階段を下りる際に転倒し右足を捻挫したことで、3日間休業しました。再発防止が難しい災害ですが、階段を下りる際は手すりを使うなど、基本動作を周知することで再発を防止したいと考えています。今後も、休業1日以上、度数率、強度率を災害発生時の指標として取り入れ、監視していきます。



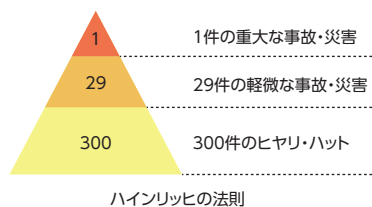
安全活動事例

KY(危険予知)活動

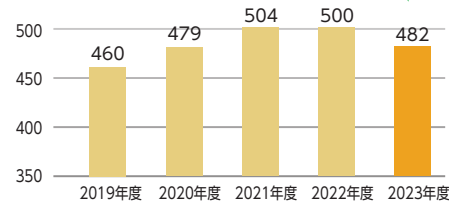
当社では毎年、KY活動を全社で展開しています。2023年度も全社で482件のKYを抽出(前年対比96%)し、事業所ごとに安全衛生に関する潜在リスクの低減に取り組んでいます。

従業員一人ひとりの危機意識をボトムアップし、継続的に潜在リスクを低減することで、労働災害ゼロを目指します。

労働災害=不安全状態×不安全行動



藤倉化成KYシート抽出件数推移



構内歩行者用通路の整備<佐野事業所第一工場>

2023年度、佐野事業所第一工場では、歩行者と構内荷役作業での接触事故を予防するため、構内の歩行者用通路を全面的に見直しました。歩行用通路、横断用通路と色分けを行い、歩行者と構内荷役車両と適切な距離を保つことで構内での「接触事故ゼロ」を目指します。



整備した歩行者用通路

職場環境における労働安全衛生アセスメント活動<フジクラカセイインドネシア>

フジクラカセイインドネシアでは、外部業者による職場環境の労働安全衛生アセスメントを実施しています。実施項目は「化学品粉塵確認」「有機溶剤蒸気確認」「ハンドミキサー使用時の手の振動」、その他「室温」「照度」「騒音」等です。さまざまな視点で評価を行い、「職場環境労働安全衛生に関する法律」に適合していることを確認し、作業環境改善や働きやすい職場づくりに取り組んでいます。



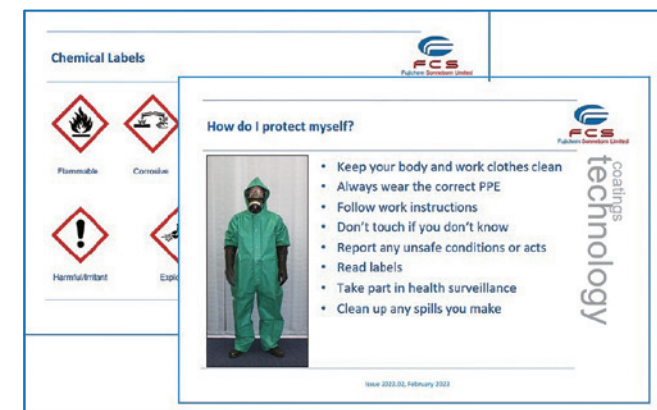
有機溶剤蒸気確認



化学品粉じん確認

製造担当者向け化学物質安全トレーニングの文書化<フジケム ソネボーン>

フジケムソネボーンでは新入社員研修を含む製造担当者向けの化学物質安全トレーニングマニュアルを作成しました。このマニュアルには、化学物質から身を守る方法、作業服の適切な着用、作業指示の順守、危険な状況での報告体制等が製造工程ごとに記載されています。実施したトレーニングの記録はトレーニング項目別に電子データとして保存され、容易にアクセスできる仕組みを構築しました。



各製造工程ごとにマニュアルを作成

緊急訓練を実施し、応急処置能力を高める<藤倉化成塗料(天津)有限公司>

藤倉化成塗料(天津)有限公司では、緊急避難訓練、屋外消火栓を用いた消火訓練、配電室の操作担当者が感電した場合の心肺蘇生救急訓練を行い、従業員の応急処置能力の向上に努めています。



緊急避難訓練



屋外消火栓を用いた消火訓練



感電した場合の心肺蘇生救急訓練

バレルリフター固定方法の改善<フジクラカセイコーティング・インドア>

フジクラカセイコーティング・インドアでは、ドラムを昇降する際に使用するバレルリフターと、ドラムの固定方法を従来のリングスパナから、より安全性の高い固定ハンドルに変更しました。これによりドラム昇降時に発生する落下事故などの労働災害のリスク低減を目指します。



改善前 リングスパナを使用



改善後 固定ハンドルを取り付け



環境保全

当社は、化学物質と化学反応を取り扱う企業として地球と共生できる環境に配慮した製品を製造しています。また、事業活動に伴う環境負荷を軽減するため、環境改善活動に計画的・組織的に取り組んでいます。

環境方針



省エネ法対策委員会報告

2023年度の活動として、省エネ法対策委員会で年4回実施している省エネパトロールで、使用している帳票をEMS三次文書の「エネルギー管理要領」に紐づけし「管理標準」の運用の徹底を行いました。また、当社でエネルギー使用量の大きい佐野事業所第一工場では、反応系工場・分散系工場・間接部門の3つのグルー

プに分かれ、それぞれのエネルギー使用状況にあった改善活動を行い、活動の中で今までにない「気づき」を得ることができました。今後、さらに重要となる省エネ活動は従業員一人ひとりの意識改革が不可欠なため、省エネ法対策委員を中心に各事業所での取り組み情報を共有・横展開し、活動を加速させていきます。

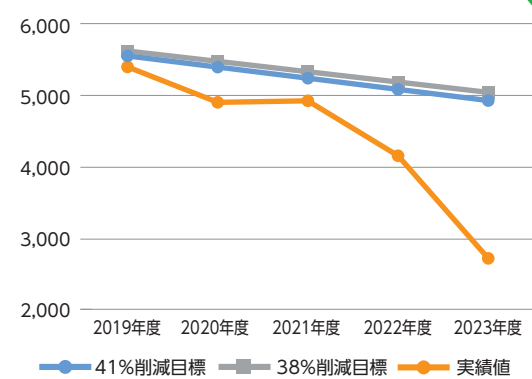
エコビジョンパフォーマンスデータ

CO₂排出量削減 目標値と実績値

目標 2030年度までに2013年度比41%削減

2023年度のCO₂排出量の目標値は、4,934t-CO₂/年以下でスタートしました。結果、2,716t-CO₂/年に抑えることができ、目標を達成しました。目標達成の主な要因は鷺宮事業所、久喜物流センターの電力契約を年間を通してCO₂フリープランに切り替えた初年度であること、省エネ法対策委員会により全社的に省エネ活動を実施したこと。また、2023年度の電力の非化石化比率は、47.82%まで高めることができました。今後も目標達成を継続するため、多角的に活動していきます。

CO₂排出量推移

CO₂排出量 (t-CO₂)

2023年度
CO₂排出量目標値
[38%削減目標]
5,048 t-CO₂
[41%削減目標]
4,934 t-CO₂

エネルギー使用量と原単位の推移

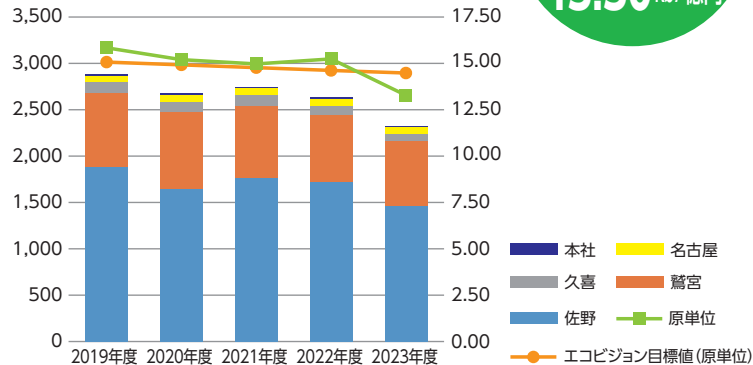
目標 5年間平均エネルギー消費原単位の年1%以上削減を継続

2023年度のエネルギー消費原単位の目標値は15.11kL/億円でしたが、結果は13.30kL/億円で目標を達成することができました。目標が達成できたのは、省エネ活動によるエネルギー使用量の削減効果および改正省エネ法施行に伴い電力で使用したエネルギーを原油換算にする際に使用するエネルギー熱量係数が下がったことが主要因です。今後、さらに電力の「見える化」などで監視を強化し、改善に取り組んでいきます。

エネルギー使用量と原単位推移

使用量 (kL)

原単位 (kL/億円)



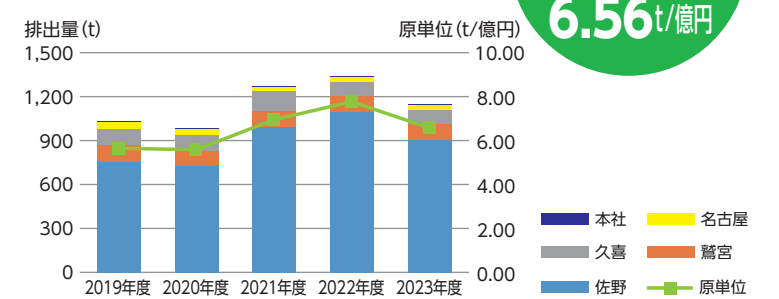
2023年度
エネルギー使用量
原単位
2,318 kL
13.30 kL/億円

廃棄物排出量と原単位推移

目標 2030年まで、廃棄物排出原単位(売上高)の前年比1%以上低減を継続

2023年度の廃棄物排出量に関する売上高あたりとした原単位の目標値は7.63t/億円でスタートしました。特別管理産業廃棄物として処理していた廃溶剤を再生業者と協議しリサイクルすることで、有価物化し廃棄物排出量の削減に繋げることができました。結果、目標原単位7.63t/億円に対し、実績6.56t/億円で目標を達成することができました。今後、さらに多角的視点で廃棄物の削減に取り組めます。

●廃棄物排出量と原単位の推移



2023年度
廃棄物排出量
1,147 t
原単位
6.56 t/億円

環境投資報告

2023年度も継続的に省エネ投資を含む環境投資を行いました。LED化工事など中長期に渡る投資も含め、計画通りに実施しました。2023年度は合計で7,584万円、原油換算で

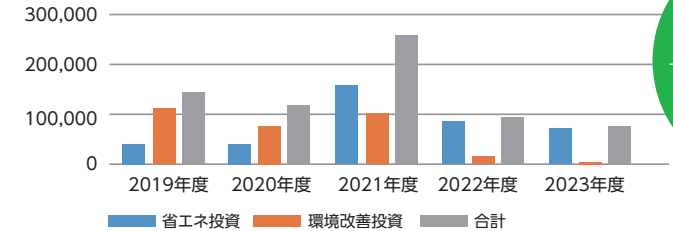
59.075kL/年の効果が見込まれる投資を行いました。CO₂換算(基礎排出係数による参考値)で121.08t-CO₂/年減になります。今後も積極的に省エネ投資、環境投資を行っていきます。

●2023年度環境投資

投資項目	投資額(千円)	該当するSDGs番号
省エネ投資	71,452	7.3, 13.3
環境改善投資	4,388	11.6, 13.3
合計	75,840	

●環境投資推移

単位:千円



2023年度
省エネ投資額
71,452千円
環境改善投資額
4,388千円

改善活動事例

サプライヤーの化学物質管理の支援を強化<レッドスポット>

レッドスポットでは、ホームページでサプライヤーを対象とした化学物質管理の支援を強化する取り組みを行っています。レッドスポットが購入している原材料メーカーに対し、国内法はもとより、各国の使用禁止物質・規制物質をリスト化し、自社での製品開発、製造、販売において化学物質に関連する遵法が継続できる仕組みを構築しています。また、新規原材料の採用や4M変化時にも対応できる体制を整備しています。



化学物質管理システム

構内緑化推進のための資源循環<フジクラカセイタイランド>

フジクラカセイタイランドでは、昼食の残飯1~2kg/日をコンポストを使い堆肥にしています。できた堆肥は、構内緑化に役立てています。今後も構内緑化を推進していきます。



コンポストを活用した残飯の堆肥化



事業を通じた環境・社会貢献

当社は、事業活動を通じた環境と社会への貢献活動を展開し、社会からの要求や期待に応えていきます。

コーティング事業



非可食のバイオマス成分含有塗料でCO₂排出量の削減

石油原料から再生可能な非可食性バイオマス原料への代替は、世界の人口増加に伴う食料問題と競合せず、さらにカーボンニュートラルの実現に向けて極めて重要なポイントになります。コーティング事業部では、非可食のバイオマス成分を用いた塗料の提案をしています。この塗料は求められる機能性を維持し、さらに循環型社会にも貢献する製品です。バイオマス成分に含まれる炭素は植物が空気中のCO₂から取り込んだものとして捉えられ、カーボンニュートラルに貢献します。これからも持続可能な社会を実現するため、環境に優しい選択肢を提案していきます。



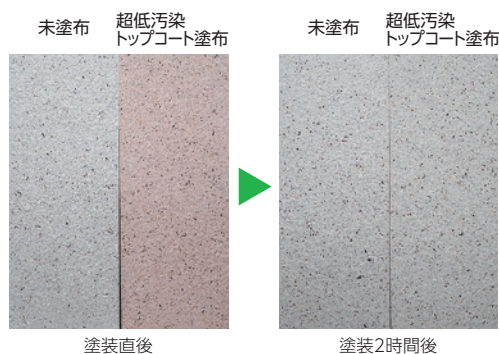
RECRACK5800FM-Rシリーズ

塗料事業



超低汚染クリアによる建築物の美観維持

建築物への付加価値提案の継続として、技術戦略推進室とのコラボレーションで開発した水系1液タイプの超親水(超低汚染)トップコートを上市しました。外壁の高耐久化に伴い外壁表面の汚れ防止のニーズが高まっています。このトップコートは水に馴染みやすい表面特性になっており、外壁表面での静電気の発生を抑制することで汚れが付着しづらくなっています。降雨時には、付着した汚れの下に水が入り込み、汚れを浮き上がらせて洗い流す構造になっています。また、塗料状態でも着色(赤色)を施しているため、施工時の塗り残し防止に繋がり、品質の安定化にも配慮しています。施工後、時間の経過に伴い自然と消色します。今後も継続して、環境負荷の低減に向けた貢献製品の開発を目指します。



電子材料事業



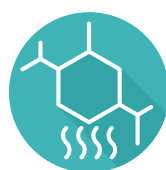
水系導電性ペーストによるVOC排出量の削減

電子材料事業部では新たに水系タイプ常温乾燥の導電性ペーストD900シリーズを開発、上りしました。従来の常温乾燥の導電性ペーストは、ネジ・カシメ等の導通補強、SEM試料保持などの簡易導通接着、回路の補修、電気メッキの下地等に幅広くご使用いただいております。

新たな製品は揮発性有機化合物(VOC)フリーにより、大気汚染や健康への悪影響を軽減します。今後も環境負荷の低減となる製品を提供し、サステナビリティ社会の実現に貢献していきます。



WATER-BASED



VOC FREE

化成品事業



環境負荷物質不使用による貢献

ポリウレタンの合成は、NMPや有機スズ化合物など、環境負荷物質を使用したものが一般的です。昨今の規制強化に伴い、当社は特定の原材料の使用を抑える方針を採用しています。これにより、地球環境への負荷を軽減し、持続可能な未来を実現する一翼を担っています。環境に配慮したポリウレタンバインダーを提供することで、社会に貢献し、より良い世界を築くための取り組みを積極的に推進しています。また、環境にやさしい代替原材料の導入や再利用、リサイクルなども積極的に行っています。これらの取り組みは、単なるビジネス上の戦略だけでなく、私たちの倫理観と使命感に基づいています。未来の世代により良い環境を残すために、私たちは努力し続けます。



インクジェットバインダー

メディカル材料分野

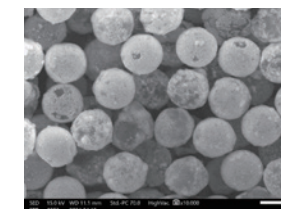


高機能性微粒子で診断薬の性能向上へ貢献

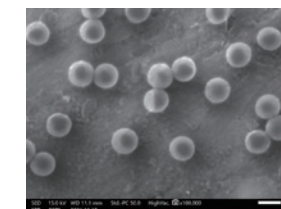
ラテックス比濁試薬の性能向上により、専用装置による高精度な測定が必要であった検査項目が、より簡便かつ汎用的な検査で確認できるようになります。これは病院や検査センターの利便性向上だけでなく、健康診断等での疾患の早期発見にもつながると考えています。

メディカル材料部はラテックス比濁試薬の原料微粒子を高機能化し、これを国内外の試薬メーカー様へ提供することで試薬の高性能化に協力しています。

また、自社製品に使用するボトルの一部をバイオマス原料使用ボトルへ置き換え、製品が抱えるCO₂排出量の削減に取り組めます。



ナノ微粒子表面加工



ナノ微粒子

合成樹脂事業



資源有効活用と持続可能なビジネスモデルの推進

新型コロナウイルス感染症の流行期間中、飛沫感染防止策として広く使用されたアクリル板をお客様から回収し、再利用可能な資源としてリサイクル会社へ販売しました。資源の有効利用と環境保護に貢献するとともに、持続可能なビジネスモデルを推進することが可能となりました。今後も、持続可能な社会の実現に向けて、環境負荷の低減や資源の有効活用に取り組んでいきます。



アクリル板の資源有効活用



化学物質管理

化学物質管理方針



化学物質は、生活に有用な物質です。半面、取り扱いを間違えば人への健康被害や環境汚染をもたらすこともあります。当社は化学物質を扱う企業の社会的責任として、直接取引のある会社はもちろん、その先も視野に入れた管理体制を敷いています。

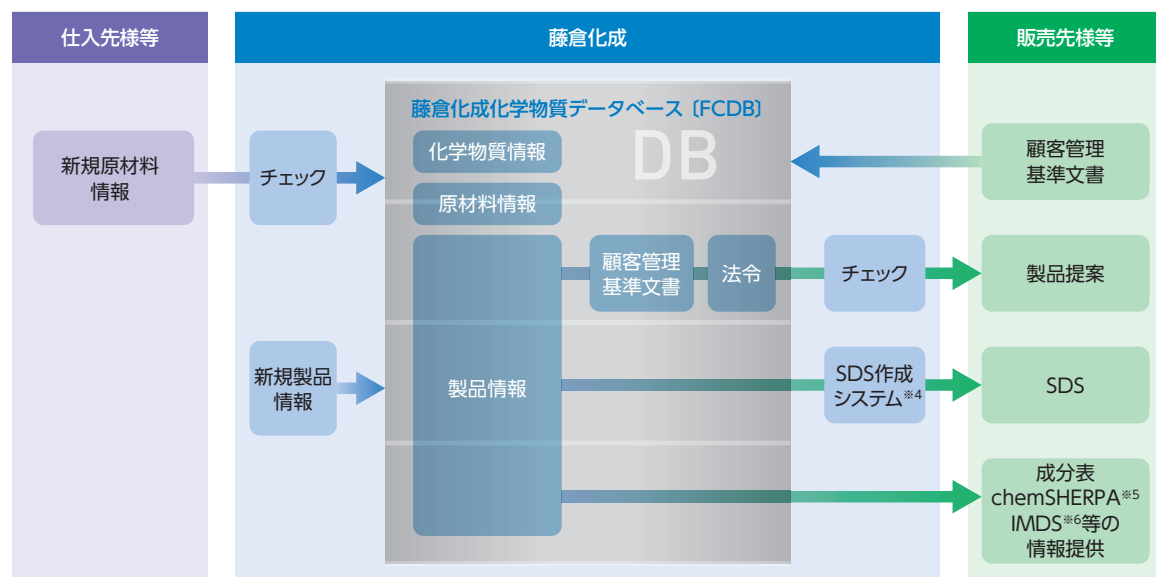
化学物質管理の取り組み

当社は、当社の製品を製造する従業員や当社製品を直接ご使用いただくお客様はもとより、エンドユーザーまで多くの方々の健康に配慮するとともに、環境に著しい悪影響を及ぼさない製品を設計し提供することが重要と考えております。

そのために化学物質管理システム (CMS) を構築し、QMS^{*1}、

EMS^{*2}、OHSMS^{*3}に組み込み運用しています。また、製品に含まれる化学物質の含有情報も適切に伝達しなければなりません。このために、当社は『藤倉化成化学物質データベース』(Fujikura kasei Chemical Data Base略称FCDB)を核とした下図のような仕組みで化学物質管理を行っています。

化学物質管理の仕組み



※1「QMS」はQuality Management Systemの略称で品質マネジメントシステム。※2「EMS」はEnvironmental Management Systemの略称で環境マネジメントシステム。
 ※3「OHSMS」はOccupational Health and Safety Management Systemの略称で労働安全衛生マネジメントシステム。※4「SDS」はSafety Data Sheetの略称で安全データシート。
 ※5「chemSHERPA」は製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム。※6「IMDS」はInternational Material Data Systemの略称で材料データベースや伝達の仕組み。

化学物質管理体制の維持・更新

現在世界中で化学物質の安全性評価が進んでおり、物質の安全性に応じた法令が整備されています。当社でも法令あるいは業界の要望などに応じ、速やかにかつ適切に対応できるよう、FCDBの維持管理を継続しています。

また、管理基準が陳腐化しないよう、当社で監視するべき化学

物質群を適切なタイミングで見直しを行っており、新製品開発時には必要な化学物質管理を確実にしつつ進められるようになっています。

これらの仕組みを通じて、お客様にご安心いただける製品の提供を心掛けています。

2023年度の活動

原材料や製品の含有物質は例年通り更新を進めており、入手情報はFCDBに登録更新し、最新情報での判断ができるようにしています。

管理すべき物質群は、法令やお客様のご要望、世間動向等を踏まえ、「使用禁止物質」「許可申請物質」として管理しております

が、大きく該当物質の見直しを行いました。

また、日本では労働安全衛生法等の改定が行われ、SDSの更新が必要となりました。SDSシステム設計・運用を見直し、全製品に対しより素早く精度の高いSDSの提供ができるよう、改善を推進しています。



コンプライアンス

公正取引・倫理方針
人権方針
情報セキュリティ方針

当社は、事業の継続や企業価値向上のため、法令・社会規範・企業倫理(モラル)の順守やそれらの従業員教育を重視しています。経営理念「ともに挑み ともに繋ぐ ～常にお客様目線で上質な価値を創出する～」のもと、国内外のグループ会社におけるコンプライアンスの浸透に取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制

当社は、グループ全体のコンプライアンスの強化のため、コンプライアンス委員会の下、当社にコンプライアンス委員、主要子会社にコンプライアンス推進担当者を任命しています。具体的

な活動としては、部門やグループ会社の委員に対し、法規制の動向等の確認および従業員向けの勉強会を実施しています。

コンプライアンス教育

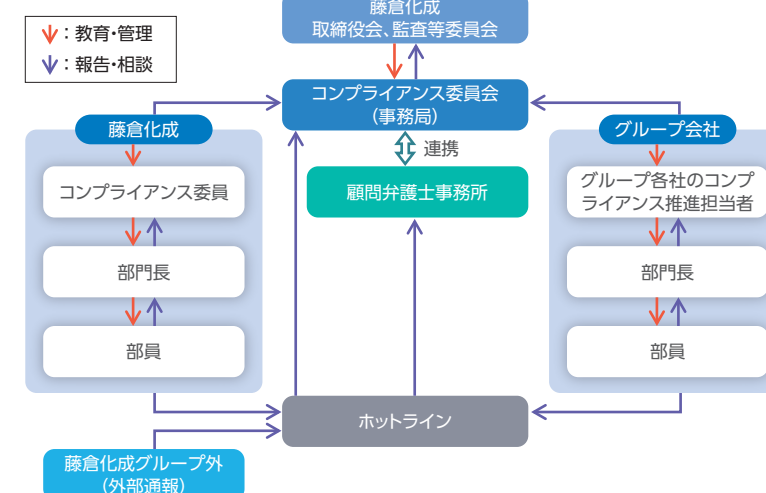
当社はコンプライアンスの順守は持続的な企業活動を行う上での礎であり、法令順守だけでなく、ステークホルダーの皆様との約束事項、社会ルールや規範などその範囲は多岐にわたり、また海外拠点においては所在する国や地域の習慣への配慮も求められると捉えています。

コンプライアンスの浸透には、従業員一人ひとりの意識が重要です。2023年度は全社展開を見据え、コンプライアンスの向上とハラスメントの防止を目的として、公正取引分科会と情報セキュリティ分科会にてそれぞれ教育動画を視聴しました。また、継続的にハラスメント教育を実施しています。

内部通報制度

当社は「コンプライアンス・ホットライン」(内部通報制度)を設けています。法令違反などの恐れのある不正な行為や事業活動を従業員が知りえた場合、コンプライアンス委員会事務局

コンプライアンス組織図



公正取引・倫理方針

当社の企業活動は、取引先企業様との健全なパートナーシップがあって成り立つものと捉えています。社会を構成する一員として、すべてのステークホルダーの皆様から信頼を得られる

または顧問弁護士事務所に通報できる制度で、通報者に一切の不利益が生じないように定められています。

人権についての取り組み

当社ではステークホルダーの人権を尊重することの重要性を認識し、2022年4月に『人権方針』を制定しました。この方針に

よう、当社は公正取引・倫理方針を確実に順守し、公正・誠実な態度で企業活動に取り組んでまいります。

情報セキュリティへの対応

当社では情報セキュリティへの対応は、情報セキュリティ分科会が行います。分科会はコンプライアンス委員会の委員長(取締役)がリーダーを務め、メンバーは情報システム部長と各拠点の管理部門や各事業部の管理職で構成され、「情報セキュリティ方針」「情報セキュリティ教育文書」が策定されています。

昨今では情報システムのクラウド化などビジネス環境の大き

基づき、人権尊重のための取り組みを強化し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

な変化によるリスクへの対応も求められています。ステークホルダーの皆様が所属する業界団体のガイドラインやその他社会的要求および想定されるリスクに対して、情報資産の取扱いの監査や分科会の活動状況の共有を行い情報セキュリティの強化に取り組んでいます。

品質活動

品質方針



当社グループの製品は、主に企業のお客様に生産財としてご購入いただいています。当社は、「藤倉化成グループの製品を購入すれば、間違いなく安心!」と世界中のお客様に信頼いただけるよう、品質マネジメントシステムを構築し、製品品質の向上とともに仕事の質の向上に取り組むことで、社会に貢献することを目指しています。

品質保証の基本的な考え

当社グループは、常にお客様目線に立った製品作りに取り組んでいます。ISO9001(表1)を基盤とする品質マネジメントシステムを構築し、お客様からの品質要求の上質化に迅速かつ正確に対応すべく、当社グループ一体となって品質保証活動を進めて

います。また、当社グループ全体で世界同一品質を提供すべく、国内外のグループ会社でのISO9001の認証取得(表2)・維持を推進するとともに、品質維持活動により継続的な改善を実施しています。

●当社の品質マネジメントシステム認証取得状況(表1)

マネジメントシステム	認証事業部	主担当部門
ISO9001※1	全社	コーティング材、導電性ペースト材、化成品(体外診断用医薬品及びその他メディカル材料部で取り扱う全ての製品を除く)の設計、製造、販売
ISO13485※2 医療機器産業に特化した国際規格	メディカル材料部	体外診断用医薬品及びその他メディカル材料部で取り扱うすべての製品の設計、製造、製造販売
IATF16949※3 自動車産業に特化した国際規格	電子材料事業部	導電性及び絶縁性ペースト材の設計及び製造

※1 一般社団法人日本能率協会 審査登録センター ※2 SGSジャパン株式会社 ※3 LRQAリミテッド

●製造拠点のある国内外のグループ会社のISO9001認証取得状況(表2)

	製造拠点 会社数※4	認証取得数	認証取得率
国内	4	3	75%
海外	10	9	90%
合計	14	12	86%

※4 藤倉化成を含む製造拠点のある会社

品質保証体制

当社では、製品品質の確保(製品含有化学物質管理含む※5)のため、製品の企画・設計・製造・出荷・お客様にご使用いただくまでの全プロセスの体制を備えています。

品質トラブル(品質不具合や顧客苦情)が発生した場合、品質保証部・事業部・生産部が一体となって原因究明および再発防止への活動を実施します。品質保証部は、常にお客様目線に立って品質保証するため、各事業部および生産部から分離独立した社長直轄部門とし、適切な対応ができる体制を整えています。

また、各事業部・各部門のメンバーが参画する品質保証推進会議を設置し、全社の品質マネジメントシステムの維持・改善、品質問題解決のための提言等の活動を進めています。

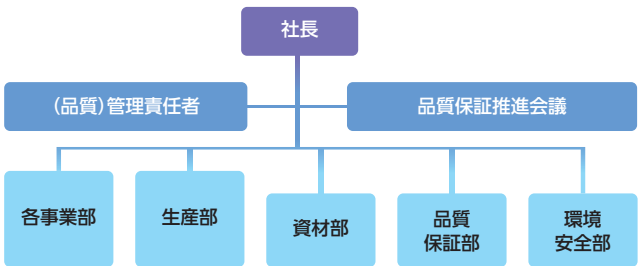
品質保証体制に関する中長期的取り組み

当社では、2030年のありたい姿の実現に向け、第11次中期経営計画がスタートしました。品質保証体制に関して、2023年度の取り組み内容は、以下の通りです。

- a) 当社グループで、高品質、世界同一品質を提供するための取り組み
a) 検査方法・検査機器の統一および品質保証体制確立のため、海外グループ会社(ベトナム、マレーシア、インドネシア)に品質維持活動実施(2024年度は中国、インドを予定)
- b) 製造品質向上および品質トラブル予防のため、原材料・製品へ傾向管理を導入(導入率70%)

2018年度からは、品質トラブルの未然防止に繋げるために設計段階から課題の洗い出しを行い、デザインレビューを強化しています。また、発生した顧客苦情に対しては、対策のフォローアップの強化により再発防止に取り組んでいます。

※5 製品含有化学物質管理については、P43の化学物質管理の項で述べています



②サステナブルな品質保証体制構築のための取り組み

- a) 情報共有および省力化のため、品質データ・文書のペーパーレス化推進
- b) 品質トラブル予防・廃棄物削減のため、対策の水平展開、フォローアップの強化
- c) 検査不正排除のため、検査成績表の自動発行化推進

地域社会への貢献

当社および当社グループでは、国内・海外グループ会社の拠点が位置する地域に応じた社会貢献活動を行っています。2023年度の主な活動についてご紹介します。

藤倉化成および国内グループ会社の活動

■藤倉化成株式会社

当社には5か所の事業所があり、それぞれの事業所が属する地域社会とのコミュニケーションに努めています。また、事業や従業員を通じた社会貢献活動を実践し、地域社会とのコミュニケーションづくりを大切にしています。

当社グループは各拠点で地域社会貢献活動を積極的に実施しております。今後も地域社会との共生を大切にしながら地域社会の持続可能な発展に貢献することを目指しております。

●藤倉化成の活動内容

活動内容	実施した事業所
藤倉学園(知的障がい者支援施設)への寄付	本社
赤い羽根共同募金、日本赤十字社への寄付	本社
蓮田市福祉協議会への災害用備蓄品寄付	鷺宮事業所
年2回以上の献血車受入れ	鷺宮事業所
高校生インターンシップの受け入れ	佐野事業所 久喜物流センター
自治会祭事への協賛	佐野事業所 久喜物流センター
工場緑化協定への参加	名古屋営業所
工業団地内や地域の清掃活動に参加	鷺宮事業所/佐野事業所/名古屋営業所
能登半島地震災害義援金	佐野事業所

●国内グループの活動内容

活動内容	実施した会社
NPO法人エコキャップ推進協会 エコキャップ運動 3,500個収集	フジケミ東京株式会社
天神祭、水都くらわんか花火大会(枚方)への寄付	フジケミ近畿株式会社
町内夏祭り、秋祭りへの寄付	フジケミカル株式会社
海外からの私費外国人留学生へ奨学金支給	藤光樹脂株式会社

海外グループ会社の活動

■フジクラカセイインドネシア

フジクラカセイインドネシアでは創立10周年を記念して、全従業員と地域の孤児40名を招待した感謝祭を開催しました。この行事では、皆で祈りを捧げ、子供たちへの寄付を行いました。また、インドネシアの伝統的なお祝い料理であるナシトゥンパンでフジクラカセイインドネシアの10周年を祝い、夕食を提供しました。



感謝祭の様子

■レッドスポット

レッドスポットではさまざまな部署のメンバーで構成されるRSVPというボランティアチームがあり、社内外のボランティア企画、実行を行っています。



動物園清掃活動



病気の子供の夢を叶える活動支援

■フジクラカセイタイランド

フジクラカセイタイランドでは2023年6月に「クロンスアン保育園の学びと遊び」と2023年12月に「赤十字への献血」を行いました。これらの活動はアジア工業団地における地域社会と企業の良好な関係を構築するCSR活動の一環です。



献血の様子

2023年の主な取り組み

Earth Day Celebration	植樹活動、消火訓練
NPO法人Grantedと提携	病気を抱える子供たちの願いを叶える活動
Tri-State Food Bank	低所得高齢者への支援
Mesker Park Zoo	動物園の清掃活動、メンテナンス活動
Annual United Way Campaign	1時間分の給与を寄付 77名USD26,605
Gobbler Gathering Event	618箱のマカロニチーズを寄付
Santa for Seniors	老人ホームの入居者へクリスマスプレゼント配布
その他CSR活動	38団体を支援、合計USD60,000寄付